



アドビシステムズ株式会社が オリジナル和文書体小塚明朝™の Windows®版の開発を発表

【1998年1月12日】

アドビシステムズ株式会社（本社：東京都渋谷区 代表取締役社長：木村 八郎）は本日、アドビシステムズ初のオリジナル和文書体小塚明朝のWindows版の開発を発表しました。Windows版の小塚明朝は、1998年第3四半期に出荷を予定している製品版パッケージ Adobe® Type On Call™ J に収録される予定です。

「小塚明朝」は、本文から見出しまでの幅広い用途に利用できる明朝体ファミリーです。キャプションなどごく小さな文字サイズで使ったときに効果的な EL（Extra Light）、一般的な本文組版から広告用コピーなどの広範な用途をカバーする L（Light）、R（Regular）、M（Medium）の3つのウェイト。見出しなどにおいて、明快で力強いメッセージを表現する B（Bold）と H（Heavy）。「小塚明朝」ファミリーはこれら6つのウェイトで構成されています。どのウェイトを使った場合でも優れた印字・印刷適性が得られるよう、各ウェイトで多用される印字サイズ・用途などの諸条件を考慮して入念にデザインされています。

アドビシステムズ株式会社では、既に Windows 版の Adobe® Acrobat® 3.0J、Adobe Illustrator® 7.0J、Adobe® PageMaker® 6.5J、Adobe Photoshop® 4.0J、Adobe® FrameMaker® 5.5J にタイプバンク書体、平成書体を収録したバンドル用 Adobe Type On Call J を同梱しています。このバンドル用 Adobe Type On Call J にアドビオリジナル和文書体「小塚明朝」6書体、「タイプバンク」新書体等の新しい書体を追加したものを製品版パッケージとして1998年第3四半期に出荷すべく開発に着手しておりますが、かねてより出荷を表明していたモリサワの Windows 版 Type1 和文書体に関して、短期間では解決できない技術的課題が発生したためアドビシステムズ株式会社と株式会社モリサワは合意の上、モリサワ書体の次期 Adobe Type On Call J 製品版パッケージへの収録を見送ることを決定いたしました。

今回の発表にあたり、同社代表取締役社長 木村 八郎は、次のように述べています。

「今回、アドビがオリジナル和文フォント小塚明朝の Windows 版の開発を発表できて大変嬉しく思います。アドビはユーザがよりオープンな環境でパブリッシングを行えるように全力をつくしてまいります。また、かねてより出荷を表明していたモリサワ書体の製品版パッケージ Adobe Type On Call J への収録を見送ることを大変残念に思うとともに、長期間お待ちいただいていたユーザの皆様には大変申しわけなく思っております。しかしながら アドビシステムズ株式会社、株式会社モリサワ両者は、継続して Windows プラットフォームにおけるパブリッシング環境の充実に力を注いでまいります。」



Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）は、1982年に創設され、米カリフォルニア州サンノゼの本社を拠点に活動を展開しています。アドビは電子メディアによる書類の作成・表示・印刷・伝送などを実現するソフトウェアやコンピュータ技術の研究開発を行っています。自社技術をコンピュータ機器や印刷機材の大手メーカーへライセンス供与するほか、コンピュータで利用可能なフォントやアプリケーションソフトウェアの開発も行い、ヨーロッパと環太平洋地域の拠点からの販売網を通じて世界各地に製品を提供しています。アドビシステムズ株式会社は、1989年に設立されて以来、世界中の製品メーカーとの協力により、日本市場向けポストスクリプト製品の開発に携わると共に、Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、Adobe PageMaker、Adobe Acrobatをはじめとする各種アプリケーションや書体の開発、販売、サポートを行っております。